

一心寺かわら版

第二十四号 平成二十四年一月発行

初春

「絆」
いづつながりよるな



新年を迎えて

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年は東日本大震災が起こり、悲しみに沈まれている方を思うと胸が痛みますが、一年を表す漢字に「絆」が選ばれたように、苦難に遭ったときに「つながり」が力となることが改めて実感されました。当山一心寺、本山興正寺で勤められた宗祖親鸞聖人七十五回大遠忌テーマ「いのち・つながり・よろこび」を今一度噛みしめていきたいと思えます。

阿弥陀如来、仏さまとのつながり、周りのいのちのちとのつながりが力となって、苦難があれども力強く共に歩んでいきますよう念願いたします。本年もよろしくお願い申し上げます。 合掌

本山興正寺宗祖親鸞聖人七十五回大遠忌法要と

湯の花温泉の旅

岡田嘉幸

早朝七時に観音寺を出発して本山興正寺に向かう一心寺参拝団一行三十名は、全員元気に故郷を後にする。さぬき豊中ICから高松自動車道に上がり京都を目指した。旭に輝く讃岐富士（飯野山）を窓に眺めながら進むと、やがて瀬戸大橋を渡る。朝風の瀬

戸内海、鏡のように穏やかな水面、今回の旅の平穏を祝しているようで心落ち着く。早島・倉敷を過ぎると山陽道、吉備SAで最初のトイレ休憩となる。吉備路の紅葉にはまだ少し早いようである。旭川・吉井川を通過する。岡山の一級河川は香川と違い水量が多い。ガイド片桐様は物知りでベテラン、温泉・ビール工場・溜池・閑谷学校の櫂の木（蛾）など面白い。やがて新幹線のガードを潜り、千種川を渡る。塩の町赤穂、忠臣蔵の話となる。満開のコスモス畑、奇麗な眺めである。次は醤油とそうめんの町竜野である。トンネル多く又防音壁のため景色は垣間見る程度だが白鳥城・姫路城（白鷺城）、高級葡萄の話などを聞きながら進み、加古川・三木・淡河SAを通過する。モノレールを左手に見て進むと万博で知られた太陽の塔、「芸術は爆発だ」と叫んだ岡本太郎、高度成長期の産物である。高槻を過ぎて光秀ゆかりの大山崎トンネルを抜け、京都南ICから一般道へ下る。



（霊山の聖人納骨堂）

京都タワーが遠くに見えてくる。国道一号線は渋滞していたが堀川五条へ。車中から東寺の五重塔・京都タワー・京都駅・五条大橋などを見ながら清水寺方面に向かう。清水の駐車場にバスを止めて霊山興正寺別院へ、本山興正寺の納骨所である別院参拝後、近くの智積院会館一休庵にて精進料理の昼食となる。その後、今回のメインイベントである宗祖親鸞聖人七十五回大遠忌が行われる本山興正寺に到着した。

御門主様を中心とする四十五名の僧侶、四百名の参拝者で満堂の大法要、この度法縁をいただいて五十年に一度のこの機会に感謝するとともに、法要テーマ「いのち・つながり・よろこび」に



込められた願いをあらためて感じ、ともに生きる人生、生かされて生きる心を耕し続けたものである。

法要を勤めていた院主さんが合流し、親鸞聖人の御真影を安置する御堂の前で記念撮影、又時間が少しあったので境内の興正寺展を見学する。先頃、狩野探幽筆と判明しメディアにも取り上げられた興正寺蔵の雲龍図（下）も展示されていた。



ここで大院主さんが先に帰られるため京都駅へ向かい、代わって院主さんがバスに乗り込み本山を後にする。市内から国道九号に出て京都丹波道路を通り亀岡に向かう。今日の宿は、湯の花温泉「松園荘・保津川亭」である。二つのトンネルを抜けると日は西に落ち、やがて旅館に到着。まずは平成二十一年完成の大浴場で旅の疲れを癒す。玄関・フロントの水の流れは心が和む。夕食は山海の珍味、至福のひとつときである。院主さんの挨拶で宴が始まり、一同にぎやかに交流が深まる、最後は院主さんと女性陣のカラオケで宴を終えた。院主さんは翌日も

朝から法要があるため本山へ帰られたが、テレビの明日の予報は晴天、楽しみである。

翌朝、六時におきて朝風呂を頂く。薬湯風呂・石風呂など岩盤浴もできる。保津峡・トロッコ列車・穴太寺・光秀寺など観光資源に富んだ所である。ホテルを八時三十分に出発して豆屋黒兵衛に到着、京漬物・丹波黒大豆をお土産に買い求め、再び京都市内へ戻ってきた。京都タワーの高さは百三十一m、建設当時の京都の人口である。京都御所・八坂神社・大文字・高山彦九郎（維新



の先覚者) など市内観光をして下鴨神社に到着。かつては社領八千六百石、由緒ある神社で昔のままに残る平地の原生林で世界文化遺産に指定されている。官司による面白い本殿等の解説に感銘を受けた。広い邸内を移動して、方丈記で有名な鴨長明ゆかりの河合神社で十二単衣の着付けと説明、王朝の舞観賞（上）で楽しい時を過ごした。「怠りて磨かざりせば、光りある玉も、瓦に等しからまし」（昭憲皇太后）

糺の森を後にして妙心寺に向かう。臨濟宗妙心寺派大本山妙心寺は洛西右京区花園にあり、禅宗の道場として知られ史跡・名勝に指定された庭園、国宝・重文の建造物も多く、特に法堂の天井画雲龍図は有名で狩野探幽法眼守信の大傑作である。妙心寺鐘・明智風呂など、それぞれの故事を聞きながら堂内を散策する。境内は十万坪あり全国に三千五百の末寺を持つという。

駐車場近くの花園会館で昼食を摂り、次は東寺に向かう。最後の観光地、東寺は地元では「お東さん」と親しまれ真言宗大本山



教王護国寺、世界遺産に登録され日本一の高さ五十五mを誇る五重塔（写真上、下は塔内部）、国宝の金堂・梵天像・講堂内の大日如来を中心にした仏像（国宝十五・重文六）誠に荘厳である。

東寺を後にして帰路につく。鴨川を通過すると間もなく桂川SAで最後のショッピングを済ませ一路西進、多少疲れ気味だが綾小路きみまろの漫談を聞きながらバスは高速道路を走り続ける。淡路SAには五時十分頃着いた。夕日は西に沈み、観覧車のライトアップが美しい。夕食の弁当を積み込み、淡路を経て再び鳴門ICから高松道津田SAで最後のトイレ休憩、全員元気に出発地観音寺に帰ることができた。

ドライバー岩井様の安全運転、ガイド片桐様の名ガイド、添乗の労を取って頂いた大久保様、有難うございました。院主さん、大院主さん、役員の方には大変お世話になりました。

両親の納骨から十六年が過ぎた。今回の親鸞聖人七十五回大遠忌に参拝し、久方振りに霊山興正寺別院にて手を合わさせていただいた時、仏前等で会うことのなかった親の顔が目の前に現れ、自然と頭を下げ現況報告をいたしました。今後も「俱会一処」のみ教えを大切に相続してゆきたく思いました。（久保守）

御影堂での法要、最前列中央部近くに座り、おごそかに法要が進むにつれその中に引き込まれ、時間を忘れてまるで自分がお浄

土に居るかのようにさえ思ったものです。また御門主様のお言葉も心に残りました。まことに貴重な得難い体験をさせていただきました。有難うございました。（岩橋修）

大遠忌に団体参拝させていただき誠に有難うございました。改めて親鸞聖人の仏教に対する熱意と教訓を痛感いたしました。また、観光名跡では専属のガイドさんの詳しい説明があり本当によくわかりました。精進料理もおいしかったです。次回も参加させていただきたいと思えます。（横山貞司）

五月には一心寺にて御門主様をお迎えして厳かに法要が勤まり、続いての本山での大遠忌、大院主さんの言葉によると、今回の法要はこれまでの法要の中でも最も素晴らしかったとのこと、私も初めての体験で本当に感激いたしました。また皆様と一緒に参拝したいものです。（田中寛）

この度、十年ぶりに本山興正寺団体参拝旅行を行いました。満堂の参拝者とともに勤めさせていただいたことに感謝いたします。全国の人々が集い「いのち・つながり・よろこび」を感じることができたならば幸いです。また、夕食の宴では法事の席とは違った雰囲気の中でご縁が深まったように感じています。

次の機会にはみなさま是非一緒にお参りしましょう。合掌

御門主のお言葉（抜粋）

親鸞聖人はすべての人々にいのちの温もりと安らぎをもたらす教えを伝えてくださいました。その教えは幾多の時代を超え、先人の願いと努力により今日の私たちに届けられました。ここに聖人のご遺徳を偲び、先人のご恩に感謝し、共にお念仏申させていただきます。今年、東日本大震災や豪雨災害など、自



然の猛威を痛感させられる年になりました。今なお苦難の生活を余儀なくされている被災者の方々の悲しみは、時間と共に深まっていますことでありましょう。聖人のみ教えを仰ぐ私たちは少しでもその悲しみに寄り添う気持ちを大切に、人と人の絆、つながり合ういのちを思い、お念仏に生かされる異議を確かめてまいりたいものです。

「いのち・つながり・よろこび」この法要テーマを掲げたのは、『親鸞聖人のみ教えを通して、人間中心の狭い価値観を転じ、広く大きないのちの中に生きよう』『生かされている自分であることに気付き、目覚めて生きる私になろう』との願いからです。

私たちのいのちは、限らない深さや広がりの上に成り立っています。計り知れない歴史とつながり、実に多くのおかげを受け、不思議と生かされている私であります。

そして、生かされている私に気が付けば、もはや自分のいのちを空しくすることはできませんし、他のいのちを軽んずることもできなくなります。自分の人生を大切に生き、相手の人生をも大切に思うということがここから始まることでしょう。

この気づきを、『仏法に遇う』『仏さまの智慧をいただく』というのです。親鸞聖人が顕かにして下さったお念仏の教えにおいては、私たちの閉鎖的な考え方は見直され、人と人との出会い、つながりの中に大切な意味が見出せる人生が始まります。

ですから何よりも、『お念仏申す身となること』が大切なのです。私たちに、いのちの安らぎと温もりを与えようと、共に悲しみ、共に歩んで下さる阿弥陀さまの深い智慧と慈悲のおこころ、すなわちお念仏の意味を知らせていただくことが何より大切です。阿弥陀さまは、苦悩する私の身を歎き悲しまれ、必ずよろこびに目覚めさせずにはおかないと願いを立てられ、おはたらきを成就されました。

今や、南無阿弥陀仏の六字のお名号となられ、常に私たちに呼びかけて下さっています。『いのちはみなつながり合い、生かされて生きているのですよ』、『ひとりで生きているのではなく、共に生きているのですよ』と私たちに呼びかけ、目覚めをうながして下さっているのです。



宗祖親鸞聖人750回大遠忌法要参拝記念 西讃教区第10組 一心寺 平成23年10月27日 於 興正寺

ちよつと一言

よく「院主さん、うちの法事来年だったかな」などと聞かれることがあります。お仏壇にある「過去帳・くりだし」はご命の方の法名が前に出るように毎日毎月開いていくものです。

祥月命日を毎年勤める、中讃では月参りを続けている家庭も多々あります。三豊観音寺では現在法事は年回忌ごとになっていますが、昔は毎月毎年勤められていたことも多かったのです。

年の初めに過去帳・くりだしを一覧し、毎年お配りしている柱掛け法語年忌表と照らし合わせて見てはいかがでしょうか。手を合わせる心を大切に子や孫に広げていきたいものです。 合掌